



バイリンガル子育ての ヒント

vol.1

『登る山を決める。一口にバイリンガルと言っても。』



「登る山を決めると人生の半分が決まる。」というの、ソフトバンクの孫さんの言葉です。今を時めく経営者稲盛和夫さんもよく経営を山登りに喩えられます。近所の裏山に登るのか、富士山か、あるいはエベレストに登るのかで、必要な装備、トレーニング、ストラテジーが全く異なるからです。

「語学に向いている子供もいれば向いていない子供もいるし、子供の好き嫌いもあるし。」と思われるかもしれませんが、でもそうでしょうか？日本語力を身につけることは、その他のお稽古事とは少し違います。なぜなら、日本語力は日本人としてのアイデンティティーに密接に関係しているからです。アメリカで育てるのだから自分の子供は100%アメリカ人として育てるというのも一つの考え方でしょう。でも日本人として育てたいのであれば、日本語力は必要不可欠です。

そして日本語力に限っては親がかなり決められないもう一つの理由があります。語学が身につくかどうかは環境に左右される所が大き

く、子供の環境を整えてあげることができるとは親だけからです。日本で育った皆さんは大人になってから英語の発音を身につけるのがいかに大変か経験されていると思います。また自分の子供がいつも簡単に完璧な英語を話しているのも目の当たりにされていると思います。こと語学に限っては子供の頃に学んだ方が簡単であることが多く、大人になってから子供が自分で決めればいいでは、遅すぎることもあるのです。

宮崎 直子

津田塾大学英文科卒、イリノイ大学アジア研究科(日本語教育、言語学専攻)修士課程卒。ことば+カルチャー (kotobaandculture.com) 代表。

